

# 資料編

# 1) プランの策定体制と策定経緯

## (1) 柏市環境審議会員名簿

(発行日現在)

区分	氏名	職等	生物部 会委員	備考
学識経験者	青 柳 みどり	国立環境研究所社会環境システム 研究センター統合環境経済研究室		
	内 山 久 雄	東京理科大学理工学部 教授		会長
	小 野 宏 哉	麗澤大学経済学部 教授		
	野 村 昌 史	千葉大学大学院 教授	○	生物部会 部会長
	矢 野 博 夫	千葉工業大学情報科学部 教授		
	吉 田 好 邦	東京大学大学院 教授		
市民団体の 代表者及び 市民	川 瀬 美 幸	かしわ環境ステーション	○	
	松 清 智 洋	名戸ヶ谷ビオトープを育てる会	○	
	村 田 静 枝	柏市ストップ温暖化サポーター		副会長
	平 川 美 穂	公募委員		
	星 博 人	公募委員	○	
	吉 田 瑠璃子	公募委員		
農業団体、 商工業団体 及び市内事 業所の代表 者	川 上 よう子	柏市沼南商工会		
	川 津 恵 子	柏市商店会連合会		
	染 谷 茂	柏市農業委員会	○	
	鴫 田 美 保	柏商工会議所		
	縄 田 良 介	十余二工業団地連絡協議会		
	皆 川 悦 子	柏産業懇話会		
市民団体の 代表者及び 市民（生物 部会のみ参 加）	相 澤 章 仁	株式会社大林組 技術研究所 研究 員	○	生物部会 副部会長
	井ノ崎 史	柏ホテルの会 会長	○	
	半 沢 裕 子	美しい手賀沼を愛する市民の連合 会	○	

## (2) 柏市生きもの多様性プラン策定経過

実施時期	会議など氏名	内容
平成 22 年 5 月 17 日	第一回 柏市環境審議会	・ 柏市生物多様性地域戦略プランについて（諮問） ・ 生物部会委員の選出について
平成 22 年 7 月 30 日	柏市環境審議会 第一回生物部会	・ 部会長・副部会長の選出について ・ 柏市生きもの多様性プランの構成等について
平成 22 年 8 月 30 日	柏市環境審議会 第二回生物部会	・ 生きもの多様性プランの基本的な考え方について ・ 生きもの多様性プランの将来像と基本方針について
平成 22 年 9 月 30 日	柏市環境審議会 第三回生物部会	・ 生きもの多様性プランの基本的施策（1）について
平成 22 年 11 月 8 日	柏市環境審議会 第四回生物部会	・ 生きもの多様性プランの基本的施策（2）について
平成 22 年 11 月 24 日	第二回 柏市環境審議会	・ 生きもの多様性プランの中間報告について
平成 22 年 12 月 15 日 ～平成 23 年 1 月 7 日	パブリックコメント	・ 意見件数 9 件
平成 23 年 2 月 3 日	柏市環境審議会 第五回生物部会	・ 生きもの多様性プランへの市民等からの意見について
平成 23 年 3 月 22 日		・ 環境審議会から答申

## (3) 柏市生きもの多様性プラン改訂経過

実施時期	会議など氏名	内容
令和元年 7 月 2 日	令和元年度 第一回 柏市環境審議会	・ 柏市生きもの多様性プランの改訂について（諮問） ・ 生物部会委員の選出について
令和元年 9 月 6 日	令和元年度 柏市環境審議会 第一回生物部会	・ 生物部会委員の委嘱について ・ 部会長及び副部会長の互選について ・ 柏市生きもの多様性プランの改訂について
令和元年 12 月 25 日	令和元年度 柏市環境審議会 第二回生物部会	・ 柏市生きもの多様性プランの改訂について
令和 2 年 2 月 18 日	令和元年度 柏市環境審議会 第三回生物部会	・ 柏市生きもの多様性プランの改訂について
令和 2 年 3 月 27 日	令和元年度 第二回 柏市環境審議会	・ 柏市生きもの多様性プラン改訂に係る生物部会での審議経過について

令和3年3月8日	令和2年度 第一回 柏市環境 審議会	・ 柏市生きもの多様性プラン改訂に係る生物部会での審議経過について
令和3年10月29日	令和3年度 柏市環境審議会 第一回生物部会	・ 柏市生きもの多様性プランの改訂について
令和3年11月5日 ～11月12日	令和3年度 柏市環境審議会 第二回生物部会 (書面)	・ 柏市生きもの多様性プランの改訂について
令和3年11月26日	令和3年度 第一回 柏市環境 審議会	・ 柏市生きもの多様性プラン改訂に係る生物部会での審議経過について
令和3年12月9日 ～12月24日	令和3年度 柏市環境審議会 第三回生物部会 (書面)	・ 柏市生きもの多様性プランの改訂について
令和4年1月11日 ～2月10日	パブリックコ メント	・ 柏市生きもの多様性プランの改訂について 6名より計20件の意見あり
令和4年2月18日 ～2月28日	令和3年度 柏市環境審議会 第四回生物部会 (書面)	・ 柏市生きもの多様性プランの改訂について ※パブリックコメントの結果について
令和4年3月25日	令和3年度 第三回 柏市環境 審議会	・ 柏市生きもの多様性プランの改訂について(答申) ※生物部会における審議結果について

## 諮問書

柏環環第650号

令和元年7月2日

柏市環境審議会

会長 内山久雄 様

柏市長 秋山浩保



柏市生きもの多様性プランの改定について（諮問）

本市における環境保全施策の更なる推進を図るため、柏市生きもの多様性プランの改定について、柏市環境基本条例第24条第1項の規定により、貴審議会に諮問します。

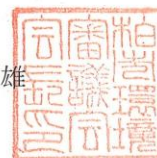
## 答申書

令和4年3月25日

柏市長 太田和美様

柏市環境審議会

会長 内山久雄



「柏市生きもの多様性プラン」の改訂について（答申）

令和元年7月2日付け柏環環第650号で諮問がありました柏市生きもの多様性プランの改訂について慎重に審議を重ねた結果、別添の「柏市生きもの多様性プラン（案）」のとおり答申します。

## 2) 柏市人里の生きものリスト

■表一「人里の生きもの（動物編）」リスト（153種）

類	科名	種名	県 RL	備考
哺乳類	ネズミ科	カヤネズミ	D	
	イタチ科	ホンドイタチ		
	イヌ科	キツネ		
鳥類	サギ科	アオサギ		
		アマサギ		
		コサギ	B	
		ダイサギ	D	
		チュウサギ	B	
		ヨシゴイ	A	
	キツッキ科	アカゲラ	C	
	シギ科	イソシギ	A	
		キョウジョシギ	C	
		タカブシギ	B	
		タシギ		
		チュウシャクシギ	C	
		ハマシギ	B	
	ツグミ科	イソヒヨドリ		
		ノビタキ		
	ウグイス科	ウグイス		
		エゾムシクイ		
		オオヨシキリ	D	
		セッカ	D	
	アトリ科	ウソ		
		ベニマシコ		
	エナガ科	エナガ		
	ホオジロ科	オオジュリン	D	
		クロジ	D	
		ホオジロ	C	
	タカ科	オオタカ	C	
		サシバ	A	
		ツミ	D	
		トビ		
		ノスリ	C	
		ハイタカ	B	
		ミサゴ	B	
	ハヤブサ科	ハヤブサ	A	
		チョウゲンボウ		
	クイナ科	オオバン	C	
		バン	B	
	カモ科	オカヨシガモ	C	
		スズガモ	D	
		マガン	X	
		ヨシガモ	B	
		ミコアイサ		
	カイツブリ科	カイツブリ	C	
		ハジロカイツブリ		
		カンムリカイツブリ	D	
	カラス科	カケス	D	
	ウ科	カワウ		
カワセミ科	カワセミ	C		

類	科名		種名	県 RL	備考
	キクイタダキ科		キクイタダキ		
	セキレイ科		キセキレイ	B	
			セグロセキレイ		
	ヒタキ科		キビタキ	A	
	レンジャク科		キレンジャク		
	カモメ科		コアジサシ	A	
	チドリ科		コチドリ	B	
			タゲリ	D	
			ムナグロ	B	
	カササギヒタキ科		サンコウチョウ	A	
	ツバメ科		イワツバメ	D	
			ツバメ		
	シジュウカラ科		ヒガラ		
			ヤマガラ		
	ヒバリ科		ヒバリ	D	
	フクロウ科		フクロウ	B	
カッコウ科		ホトトギス	C		
メジロ科		メジロ			
爬虫類	イシガメ科		クサガメ		
	トカゲ科		ニホントカゲ	B	
	ナミヘビ科		アオダイショウ	D	
			シマヘビ	C	
			ジムグリ	B	
			ヤマカガシ	D	
	カナヘビ科		ニホンカナヘビ	D	
ヤモリ科		ニホンヤモリ	D		
両生類	ヒキガエル科		アズマヒキガエル	C	
	アカガエル科		トウキョウダルマガエル	B	
			ニホンアカガエル	A	
	アオガエル科		シュレーゲルアオガエル	D	
	イモリ科		アカハライモリ	A	
魚類	コイ科		オイカワ		
			モツゴ	D	
	ドジョウ科		ドジョウ		
	ハゼ科		ヌマチチブ	D	
	メダカ科		メダカ		
昆虫類	トンボ目	アオイトトンボ科	アオイトトンボ	C	
		イトトンボ科	ムスジイトトンボ	B	
			セスジイトトンボ	B	
		サナエトンボ科	ウチワヤンマ	D	
		ヤンマ科	クロスジギンヤンマ	D	
			サラサヤンマ	D	
		オニヤンマ科	オニヤンマ		
		トンボ科	コノシメトンボ	D	
	チョウトンボ		D		
	カワトンボ科	ハグロトンボ			
	バッタ目	キリギリス科	クツワムシ	C	
			ヒメギス		
		バッタ科	クルマバッタ		
			クルマバッタモドキ		
ショウリョウバッタモドキ					
ナキイナゴ					



類	科名		種名	県 RL	備考
	バッタ目	バッタ科	ヒナバッタ		
	ナナフシ目	ナナフシ科	ニホントビナナフシ		
	カメムシ目	タイコウチ科	タイコウチ		
			ミズカマキリ		
	コウチュウ目	コオイムシ科	コオイムシ		
		ミズスマシ科	ミズスマシ	C	
		センチコガネ科	ムネアカセンチコガネ	D	
			オオセンチコガネ		
		コガネムシ科	コカブトムシ		
			シロテンハナムグリ		
		タマムシ科	サシゲチビタマムシ		
			ヤマトタマムシ		
			マダクロホシタマムシ		
		ホタル科	ヘイケボタル	C	
			クロマドボタル	C	
		カミキリムシ科	センノカミキリ		
	テントウムシ科	フタモンクロテントウ			
	ゾウムシ科	チビヒョウタンゾウムシ			
	アミメカゲロウ目	ツノトンボ科	ツノトンボ	C	
	ハチ目	スズメバチ科	ホソアシナガバチ		
		セイボウ科	オオセイボウ		
		ドロバチ科	キボシトックリバチ	C	
	シリアゲムシ目	シリアゲムシ科	ヤマトシリアゲ	D	
	チョウ目チョウ類	シロチョウ科	ツマキチョウ		
		タテハチョウ科	コムラサキ	C	
			ヒオドシチョウ	B	
			ミドリヒョウモン	C	
		セセリチョウ科	ミヤマチャバネセセリ	C	
		シジミチョウ科	ミズイロオナガシジミ	C	
			ウラキンシジミ	A	
			ウラゴマダラシジミ	C	
			ミドリシジミ	C	
		ジャノメチョウ科	ジャノメチョウ	C	
チョウ目ガ類	ヤガ科	ハグルマトモエ			
	ヤママユガ科	ウスタビガ			
		オオミズアオ			
		ヤママユ			
クモ類	コガネグモ科	オニグモ	D		
		コガネグモ	C		
		ナカムラオニグモ	D		
		ビジョオニグモ			
		ヤマシロオニグモ			
甲殻類	サワガニ科	サワガニ	C		
甲殻類	テナガエビ科	スジエビ	D		
		テナガエビ	D		
多足類	ゲジ科	ゲジ	B		
貝類	タニシ科	マルタニシ	D		
	モノアラガイ科	モノアラガイ	A		
	カワニナ科	カワニナ			
	イシガイ科	イシガイ	D		
ヌマガイ					

※本リストは柏市自然環境調査を基に作成したものです。

※「県 RL」の欄に A~D の記号が記載されている種は、「千葉県レッドリスト（H31 年 3 月発行）」に記載されている種であり、各 A~D の意味はレッドリストにおける以下のカテゴリーを示しています。

A: 最重要保護生物、B: 重要保護生物、C: 要保護生物、D: 一般保護生物、X: 消息不明・絶滅生物

■表一「人里の生きもの（植物編）」リスト（266種）

科名	種名	県 RL	備考
マツ科	モミ		
クルミ科	オニグルミ	D	
ヤナギ科	イヌコリヤナギ		
	オノエヤナギ	C	
	カワヤナギ		
	ヤマナラシ		
カバノキ科	アカシデ	D	
	クマシデ		
	ハシバミ	D	
	ハンノキ		※
	ヤマハンノキ	D	
タデ科	サクラタデ		
	サデクサ	D	
	シロバナサクラタデ		
	ナガバノウナギツカミ	C	
	ネバリタデ		
モクレン科	コブシ		
キンポウゲ科	アキカラマツ		※
	イヌショウマ		
	キンポウゲ		
	コキツネノボタン	B	
	センニンソウ		※
	ツクバトリカブト		
	ニリンソウ		
	ノカラマツ	B	
	ヒキノカサ	B	
	ヒメウズ		
メギ科	イカリソウ	C	
	メギ		
ドクダミ科	ハンゲショウ		
センリョウ科	センリョウ	D	
	ヒトリシズカ		
	フタリシズカ		
ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ		
オトギリソウ科	アゼオトギリ	A	
	オトギリソウ		
	トモエソウ	C	
ケシ科	ジロボウエンゴサク		
ユキノシタ科	チダケサシ		
	ヤマネコノメソウ		
タコノアシ科	タコノアシ		
バラ科	イヌザクラ		
	ウワミズザクラ		
	カマツカ		
	キンミズヒキ		※
	クサボケ		※
	ズミ	B	
	コゴメウツギ		
	ダイコンソウ		
	ナガボノシロワレモコウ	D	
	ヒメヘビイチゴ		
	ヒロハノカワラサイコ	C	

科名	種名	県 RL	備考
バラ科	ヤマザクラ		
	ワレモコウ		
マメ科	イヌハギ	C	
	クサフジ		
	クララ		
	コマツナギ		※
	ツルフジバカマ		
	トキリマメ		
	ノアズキ		
	フジ		
	フジカンゾウ		
	マキエハギ	D	
	ヤブツルアズキ		
	レンリソウ	C	
	フウロソウ科	タチフウロ	D
トウダイグサ科	タカトウダイ		
	ナツトウダイ		
	ノウルシ	C	
ミカンソウ科	ヒトツバハギ		※
ヒメハギ科	ヒメハギ		
ツリフネソウ科	キツリフネ	D	
	ワタラセツリフネソウ		
モチノキ科	アオハダ		
	ウメモドキ	C	
ニシキギ科	ツリバナ		
クロウメモドキ科	クロウメモドキ	C	
	クロツバラ	A	
スマレ科	アオイスマレ		
	アカネスマレ		
	アリアケスマレ		
	コスミレ		※
	スマレ		
	ニオイタチツボスマレ		
	ノジスマレ		
	ヒメスマレ		
	マルバスマレ		
ウリ科	ゴキヅル	D	
ミソハギ科	ヒシ		
	ミズマツバ	C	
	ミソハギ		
アカバナ科	ミズタマソウ		※
	オオアカバナ		
セリ科	カノツメソウ		
	ノダケ		
	ハナウド		
ツツジ科	イチヤクソウ		
	ウメガサソウ	C	
	シャクジョウソウ	C	
サクラソウ科	イヌヌマトラノオ		
	オオトラノオ		
	カラタチバナ		
	ヌマトラノオ		
	ノジトラノオ	C	
マチン科	アイナエ	C	

科名	種名	県 RL	備考
リンドウ科	コケリンドウ		
	センブリ		
	フデリンドウ		
	リンドウ		
キョウチクトウ科	コバノカモメヅル		
	スズサイコ	C	
	テイカカズラ		
	フナバラソウ	B	
アカネ科	オオバノヤエムグラ		
	キヌタソウ	A	
	ハナムグラ	C	
ムラサキ科	ホタルカズラ		
クマツヅラ科	クマツヅラ		※
シソ科	イヌゴマ		
	ウツボグサ		
	カワミドリ	A	
	キバナアキギリ		
	キラソウ		※
	クルマバナ	D	
	コバノタツナミ		
	コムラサキ	C	
	ジュウニヒトエ	D	
	シロネ		
	タツナミソウ		
	ツルニガクサ		
	ナギナタコウジュ		※
	ニガクサ		
	ヒメシロネ		
	ヒメナミキ	D	
	ミゾコウジュ	D	
メハジキ			
ナス科	イガホオズキ	C	
	オオマルバノホロシ	C	
	ハダカホオズキ		
オオバコ科	アブノメ	D	
	イヌノフグリ	C	
	カワヂシャ		※
	マルバノサワトウガラシ	B	
ハマウツボ科	コシオガマ		
	シソクサ	D	
	ヒキヨモギ	D	
	ナンバンギセル		
レンブクソウ科	ガマズミ		
	ゴマギ		
スイカズラ科	ウグイスカグラ		
	オトコエシ		
	オミナエシ	D	
	ミヤマウグイスカグラ	A	
キキョウ科	タニギキョウ		
	ツリガネニンジン		
	ツルニンジン		
	バアソブ	B	
	ホタルブクロ		
	ミゾカクシ		※

科名	種名	県 RL	備考
キク科	アキノキリンソウ		
	アキバギク		
	オグルマ	C	
	オケラ		
	カシワバハグマ		
	カントウタンポポ		
	カントウヨメナ		※
	キッコウハグマ		※
	コウヤボウキ		※
	コオニタビラコ		※
	サワシロギク	B	
	サワヒヨドリ		
	シロバナタカアザミ	C	
	シロヨメナ		
	センボンヤリ		
	タカアザミ	D	
	トネアザミ		
	ノアザミ		※
	ノコンギク		
	ノニガナ	C	
	ノハラアザミ		※
	ノブキ	C	
	ヒメシオン	B	
	ヒヨドリバナ		
	ヒレアザミ		
	フジバカマ	B	
	ホソバオグルマ	C	
	ムラサキニガナ		
	メナモミ		
	ヤクシソウ		
ヤブレガサ			
ヤマニガナ			
ユリ科	アマナ	C	
	カタクリ	B	
	ホトトギス		
	ヤマジノホトトギス	B	
	ヤマユリ		
キジカクシ科	アマドコロ		※
	コバギボウシ		
	ナルコユリ		※
	ヤブラン		
	ワニグチソウ	C	
	タカオワニグチソウ型ワニグチソウ		
サルトリイバラ科	シオデ		
イヌサフラン科	チゴユリ		
ススキノキ科	ノカンゾウ		
ヒガンバナ科	キツネノカミソリ		※
	ヤマラッキョウ	D	
ツユクサ科	ヤブミョウガ		※
ホシクサ科	ヒロハイヌノヒゲ		※
	ホシクサ	D	
イネ科	アブラススキ		※

科名	種名	県 RL	備考
イネ科	イヌアワ	D	
	オガルカヤ		
	カリマタガヤ	D	
	ヌマガヤ	B	
	ハネガヤ	C	
	ヒメウキガヤ	D	
	ヒメコヌカグサ	C	
	メガルカヤ		※
サトイモ科	ウラシマソウ		
	マイヅルテンナンショウ	A	
	マムシグサ		
	ミミガタテンナンショウ	A	
ミクリ科	ミクリ	D	
カヤツリグサ科	ウマスゲ	B	
	オニスゲ		
	オニナルコスゲ	D	
	カンエンガヤツリ	D	
	カンガレイ		
	コサンカクイ		
	コマツカサススキ	B	
	サンカクイ		※
	ジョウロウスゲ	D	
	ヌマガヤツリ		※
	ヒメアオガヤツリ		
	ヒメゴウソ	D	
	ヒンジガヤツリ		
	フトイ		
	ミズガヤツリ		※
ヤガミスゲ	D		
ラン科	エビネ	D	
	オオバトソウ		
	キンラン	D	
	ギンラン	D	
	クマガイソウ	B	
	クモキリソウ	C	
	コ克蘭		
	サイハイラン	D	
	ササバギンラン	D	
	サガミラン	C	
	シュンラン		
	タシロラン	C	
	マヤラン	C	
	オモダカ科	サジオモダカ	B
ヒルムシロ科	ヒルムシロ		
ミズアオイ科	ミズアオイ	C	
イグサ科	ハナビゼキショウ		
イラクサ科	ホソバイラクサ	B	
ブナ科	スダジイ		
ビャクダン科	ヤドリギ	C	
ナデシコ科	フシグロセンノウ	C	
ヒユ科	ヤナギイノコヅチ		
アジサイ科	ノリウツギ	A	
ハイノキ科	サワフタギ		
エゴノキ科	エゴノキ		

※本リストは柏市自然環境調査を基に作成したものです。

※「県 RL」の欄に A~D の記号が記載されている種は、「千葉県レッドリスト（H31 年 3 月発行）」に記載されている種であり、各 A~D の意味はレッドリストにおける以下のカテゴリーを示しています。

A: 最重要保護生物、B: 重要保護生物、C: 要保護生物、D: 一般保護生物

※備考欄の「※」は貴重性はやや低い在今后検討が必要と考えられるもの



### 3) 市域で生息が確認されているレッドリスト掲載種一覧

■表一「市域で生息が確認されているレッドリスト掲載種（動物編）」リスト（108種）

類	科名	種名	国 RL	県 RL	備考
哺乳類	ネズミ科	カヤネズミ		D	
鳥類	カモ科	オカヨシガモ		C	
		ホオジロガモ		B	
	カイツブリ科	カイツブリ		C	
		カンムリカイツブリ	LP	D	
	サギ科	ヨシゴイ	NT	A	
		ダイサギ		D	
		チュウサギ	NT	B	
		コサギ		B	
	クイナ科	クイナ		X	
		ヒクイナ	NT	A	
		バン		B	
		オオバン		C	
	カッコウ科	ホトギス(鳥)		C	
	チドリ科	ケリ	DD	A	
		コチドリ		B	
	シギ科	イソシギ		A	
	ミサゴ科	ミサゴ	NT	B	
	タカ科	ツミ		D	
		オオタカ	NT	C	
		サシバ	VU	A	
		ノスリ		C	
	フクロウ科	フクロウ		B	
	カワセミ科	カワセミ		C	
	キツツキ科	アカゲラ		C	
	ハヤブサ科	ハヤブサ	VU	A	
	カラス科	カケス		D	
	ヒバリ科	ヒバリ		D	
	ヨシキリ科	オオヨシキリ		D	
	セッカ科	セッカ		D	
	ミソサザイ科	ミソサザイ		C	
ヒタキ科	トラツグミ		A		
	キビタキ		A		
	ホオジロ		C		
爬虫類	スッポン科	ニホンスッポン	DD	情報不足	
	ヤモリ科	ニホンヤモリ		D	
	ナミヘビ科	アオダイショウ		D	
		シマヘビ		C	
		ヒバカリ		D	
		シロマダラ		B	
		ヤマカガシ		D	
	クサリヘビ科	ニホンマムシ		B	
	カナヘビ科	カナヘビ		D	
トカゲ科	ニホントカゲ		B		
両生類	ヒキガエル科	アズマヒキガエル		C	
	アカガエル科	ニホンアカガエル		A	

類	科名		種名	国 RL	県 RL	備考
両生類	アカガエル科		ツチガエル		A	
			トウキョウダルマガエル	NT	B	
	アオガエル科		シュレーゲルアオガエル		D	
魚類	コイ科		ゲンゴロウブナ	EN		
			ギンブナ		D	
			ミヤコタナゴ	CR	A	
			モツゴ		D	
			ツチフキ	EN		
			スゴモロコ	VU		
	ドジョウ科		ドジョウ	NT		
	メダカ科		ミナミメダカ	VU	B	
ハゼ科		ヌマチチブ		D		
昆虫類	トンボ目	アオイトトンボ科	アオイトトンボ		C	
		カワトンボ科	アオハダトンボ	NT	A	
		イトトンボ科	キイトトンボ		C	
			ベニイトトンボ	NT	A	
			クロイトトンボ		D	
			セスジイトトンボ		B	
			ホソミイトトンボ		B	
			ヤンマ科	アオヤンマ	NT	B
			クロスジギンヤンマ		D	
		サナエトンボ科	ウチワヤンマ		D	
		トンボ科	チョウトンボ		D	
			コノシメトンボ		D	
			マイコアカネ		D	
			ネキトンボ		A	
	ハラビロトンボ			B		
	カマキリ目	カマキリ科	ウスバカマキリ	DD	情報不足	
	カメムシ目	セミ科	ハルゼミ		A	
		コオイムシ科	コオイムシ	NT		
		ナガカメムシ科	ヒメジュウジナガカメムシ		D	
		カメムシ科	イネカメムシ		C	
	コウチュウ目	ゲンゴロウ科	オオヒメゲンゴロウ		C	
		ミズスマシ科	ミズスマシ	VU	C	
		タマムシ科	クロタマムシ		C	
	シリアゲムシ目	シリアゲムシ科	ヤマトシリアゲ		D	
	チョウ目	セセリチョウ科	ギンイチモンジセセリ	NT		
		シジミチョウ科	ウラゴマダラシジミ		C	
			アカシジミ		C	
			ミドリシジミ		C	
			ヤマトシジミ	NT	B	
			ヒメシジミ	NT		
		タテハチョウ科	アサギマダラ		D	
			オオウラギンスジヒョウモン		A	
			ミドリヒョウモン		C	
アカボシゴマダラ			NT			
ゴマダラチョウ				C		

類	科名		種名	国 RL	県 RL	備考
	チョウ目	タテハチョウ科	ヤマキマダラヒカゲ		C	
	ハチ目	コマユバチ科	ウミノオバチ	NT	C	
		ヒラタタマバチ科	ニホンヒラタタマバチ		C	
		スズメバチ科	キボシトックリバチ		C	
			ヤマトアシナガバチ	DD		
			モンズズメバチ	DD		
クモ類	コガネグモ科		オニグモ		D	
			コガネグモ		C	
			ナカムラオニグモ		D	
甲殻類	テナガエビ科		スジエビ		D	
			テナガエビ		D	
	サワガニ科	サワガニ		C		
貝類	タニシ科		マルタニシ	VU	D	
			オオタニシ	NT		
	オナジマイマイ科	タメトモマイマイ	LP			

※本リストは柏市自然環境調査を基に作成したものです。

※「国 RL」の欄に記号が記載されている種は、「環境省レッドリスト（H31年1月発行）」に記載されている種であり、記号の意味はレッドリストによる以下のカテゴリーを示しています。

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

※「県 RL」の欄に A～D の記号が記載されている種は、「千葉県レッドリスト（H31年3月発行）」に記載されている種であり、各 A～D の意味はレッドリストにおける以下のカテゴリーを示しています。

A：最重要保護生物、B：重要保護生物、C：要保護生物、D：一般保護生物

■表一「市域で生息が確認されているレッドリスト掲載種（植物編）」リスト（97種）

類	科名	種名	国 RL	県 RL	備考
植物	クルミ科	オニグルミ		D	
植物	ヤナギ科	イイギリ		C	
植物	カバノキ科	ヤマハンノキ		D	
植物		アカシデ		D	
植物		ハシバミ		D	
植物	タデ科	ナガバノウナギツカミ	NT	C	
植物		サデクサ		D	
植物	キンボウゲ科	コキツネノボタン	VU	B	
植物		ヒキノカサ	VU	B	
植物		ノカラマツ	VU	B	
植物		イチリンソウ		C	
植物	メギ科	イカリソウ		C	
植物	センリョウ科	センリョウ		D	
植物	オトギリソウ科	トモエソウ		C	
植物	タコノアシ科	タコノアシ	NT		
植物	バラ科	ヒロハノカワラサイコ	VU	C	
植物		ナガボノシロワレモコウ		D	
植物		ズミ		B	
植物		カマツカ		B	
植物	マメ科	レンリソウ		C	
植物		マキエハギ		D	
植物		イヌハギ	VU	C	
植物	トウダイグサ科	ノウルシ	NT	C	
植物	ツリフネソウ科	キツリフネ		D	
植物	モチノキ科	ウメモドキ		C	
植物	クロウメモドキ科	クロツバラ		A	
植物		クロウメモドキ		C	
植物	ウリ科	ゴキヅル		D	
植物	アカバナ科	オオアカバナ	VU		
植物	ツツジ科	ウメガサソウ		C	
植物		シャクジョウソウ		C	
植物	サクラソウ科	ノジトラノオ	VU	C	
植物	マチン科	アイナエ		C	
植物	キョウチクトウ科	フナバラソウ	VU	B	
植物		スズサイコ	NT	C	
植物	アカネ科	キヌタソウ		A	
植物		ハナムグラ	VU	C	
植物		ヤブムグラ	VU	C	
植物	シソ科	ジュウニヒトエ		D	
植物		ミゾコウジュ	NT	D	
植物		コムラサキ(植物)		C	
植物	ナス科	オオマルバノホロシ		C	
植物	オオバコ科	マルバノサワトウガラシ	VU	B	
植物		アブノメ		D	
植物		シソクサ		D	
植物		イヌノフグリ	VU	C	
植物		カワヂシャ	NT		
植物	ハマウツボ科	ヒキヨモギ		D	

類	科名	種名	国 RL	県 RL	備考
植物	スイカズラ科	オミナエシ		D	
植物	キク科	ノブキ		C	
植物		サワシロギク		A	
植物		タカアザミ		D	
植物		シロバナタカアザミ		C	
植物		ホソバオグルマ	VU	C	
植物		ノニガナ		C	
植物		オナモミ	VU	A	
植物		ユリ科	アマナ		C
植物	カタクリ			B	
植物	ヤマジノホトギス			B	
植物	キジカクシ科	ワニグチソウ		C	
植物	ホシクサ科	ホシクサ		D	
植物	イネ科	ハネガヤ		C	
植物		ヒメコヌカグサ	NT	C	
植物		カリマタガヤ		D	
植物		ヒメウキガヤ		D	
植物		ヌマガヤ		B	
植物		イヌアワ		D	
植物		チャボチヂミザサ		D	
植物		サトイモ科	マイヅルテンナンショウ	VU	A
植物	ミミガタテンナンショウ			A	
植物	ミクリ科	ミクリ	NT	D	
植物	カヤツリグサ科	ジョウロウスゲ	VU	D	
植物		ウマスゲ		B	
植物		ヒメゴウソ		D	
植物	ラン科	エビネ	NT	D	
植物		ギンラン		D	
植物		キンラン	VU	D	
植物		ササバギンラン		D	
植物		サイハイラン		D	
植物		マヤラン	VU	C	
植物		サガミラン		C	
植物		クマガイソウ	VU	B	
植物		タシロラン	NT	C	
植物		クモキリソウ		C	
植物		ミズアオイ科	ミズアオイ	NT	C
植物	イラクサ科	ホソバイラクサ		B	
植物	ナデシコ科	フシグロセンノウ		C	
植物		カワラナデシコ		D	
植物	ビャクダン科	ヤドリギ		C	
植物	アジサイ科	ノリウツギ		A	
植物	スイレン科	コウホネ		B	
植物	アブラナ科	イヌナズナ		C	
植物		コイヌガラシ	NT	D	
シダ植物	イワヒバ科	イヌカタヒバ	VU		
シダ植物	ハナヤスリ科	トネハナヤスリ	VU	A	
シダ植物	ウキゴケ科	イチヨウウキゴケ	NT	D	

類	科名	種名	国 RL	県 RL	備考
菌類	イグチ科	ホオベニシロアシグチ		D	

※本リストは柏市自然環境調査を基に作成したものです。

※「国 RL」の欄に記号が記載されている種は、「環境省レッドリスト（H31 年 1 月発行）」に記載されている種であり、記号の意味はレッドリストによる以下のカテゴリーを示しています。

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類、CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

※「県 RL」の欄に A～D の記号が記載されている種は、「千葉県レッドリスト（H31 年 3 月発行）」に記載されている種であり、各 A～D の意味はレッドリストにおける以下のカテゴリーを示しています。

A：最重要保護生物、B：重要保護生物、C：要保護生物、D：一般保護生物

## 4) 用語解説

### 【あ行】

#### 生きもの多様性空間

「生きもの多様性空間」とは、その場所元来の自然環境を再生し、多くの生きものの生育・生息場所となる空間のこと。本プランにおける造語。

#### 遺伝子組換え生物

ある生物が持つ有用な遺伝子を取り出して、それをほかの生物に組み込み新たな性質を持たせた生物をいう。

#### 美しい手賀沼を愛する市民の連合会

手賀沼周辺地域の自然・生活環境のあり方を学習し、手賀沼によみがえらせることを目的とした 22 の市民団体の連合会。

#### エコファーマー

「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律（持続農業法）」第 4 条に基づき、「持続性の高い農業生産方式の導入に関する計画」を都道府県知事に提出して、当該導入計画が適当である旨の認定を受けた農業者のこと。

### 【か行】

#### 外来種

自然分布域外に（意図・非意図的を問わず人為的に）移動させられた種、亜種、あるいはそれ以下の分類群をさし、その移動先で、生存し繁殖することができるものをいう。  
外来種の中で、その存在が移動した先でその場所の生きもの多様性を脅かすものを侵略的外来種という。外来種はその起源によって、国内外来種と国外外来種に分けられる。

#### CASBEE 柏（建築環境総合性能評価システム）

CASBEE とは「建築環境総合性能評価システム（Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency）の略称であり、どれだけ環境に配慮した建築物であるかを評価するシステムとして、国土交通省の支援の下、産官学の共同により開発された評価システム。CASBEE 柏は CASBEE を基本に、本市の地域特性等に合わせて、独自の評価項目や解説を加えたもの。

#### カルタヘナ法

遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律。

#### 協働

多様な部署や組織が、同じ目標を目指して、それぞれの力を持ち寄り、対等の立場で協力してともに働くこと。

#### グリーンツーリズム

農山漁村地域において自然・文化、農林漁業とのふれ合いや人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。

#### 交雑

異なる種や異なる亜種の関係にある動物が、繁殖し雑種を作ること。

## 子どもの水辺再発見プロジェクト

国土交通省、文部科学省、環境省が連携して行っている河川における自然体験活動の推進を図る事業。

### 【さ行】

#### 里山

人為的に形成され、維持されてきた二次林、またはその周辺の農地や用水路、草地などを合わせた地域のこと。関東地方の二次林は、主にコナラ、クヌギなどからなる雑木林である。

#### 里山活動協定

地権者・市民・行政が協働で里山の保全・管理・活用を実施し、地域の自然環境の保全及び生活環境の向上を図っていくことを目的とした柏市独自の制度。

#### 下総台地

標高 20～50mの平坦な台地。その周囲を斜面林が覆い、湧水が多くあり、谷津田を形成している。

#### 社会・環境貢献緑地評価システム（SEGES）

環境を保全し、潤いと安らぎのある美しいまちづくりに貢献し良好に維持管理されている優れた緑を評価認定する制度。財団法人都市緑化基金が、企業などが積極的に保全・維持・活用に取り組む優良な緑地を認定している。SEGES は Social and Environmental Green Evaluation System の略。

#### 生物多様性

生態系、生物群系（バイオーム）、さらに、地球全体に多様な生物が存在し、生態系のバランスが保たれた状態。また、生物の長い歴史と相互のつながりのこと。

### 【た行】

#### 他地域生物

本プランにおける「他地域生物」とは、あくまでも既存の生態系、生物に悪影響を与える可能性のある生物を指す。

#### 千葉県里山条例

「千葉県里山の保全、整備及び活用の促進に関する条例」のこと。里山の保全・整備を県民すべてが適正に役割分担し、余暇や教育の場などとして活用し、人と里山との新たな関係の構築や豊かな里山の次世代への引継を目的とした条例。

#### 手賀沼水環境保全協議会

千葉県、手賀沼流域7市、利水団体（土地改良区、漁業協同組合）、住民等（美しい手賀沼を愛する市民の連合会）で組織されている協議会。

#### 烏びしゃ

関東地方の正月行事として伝わっており、その年の豊作を祈願して、半紙に「烏」や「鬼」の文字を書いた的を、神官や氏子の代表が弓矢で射る儀式のこと。農家の敵といわれるカラスや鬼を追い散らすと言われている。泉地区の妙見社と鷺野谷地区の星神社で行われており、しん粉の烏を木に止まらせ飾りつけるもの。



## 【は行】

### ハビタット評価認証制度

ハビタット（潜在的な野生生物の生息環境）の保全・再生という観点から、企業をはじめとする各種団体が実施する土地利用に関わる取り組みを、客観的・定量的に評価し、良質な取り組みの選別とその社会的評価の向上を図ることにより、生きもの多様性の保全を効果的に促進することを目的とする評価認証制度。

### 人里の生きもの

柏市において以前はよく見かけた生きもので、最近見ることが少なくなった生きものフットパス

フットパスはイギリスにおいて、「人間本来の歩く権利を保障する」という考えから生まれた仕組み。自らの暮らす地域において、地域の文化・歴史・産業・景観等の資源を、地域の魅力として認識し、まちづくりへつなげる活動を意味する。

## 【ら行】

### レッドリスト

国や地方自治体によって作成された絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト。

## 【本プランの用語】

### 生きもの多様性

「生きもの多様性」は、「生物多様性」をより親しみやすく考えていただくために、本プランで使用した造語。

「生物多様性」とは、生物多様性基本法において「様々な生態系が存在すること並びに生物の種間及び種内に様々な差異が存在すること」と定義されている。

本プランでは、原則として「生きもの多様性」の用語を使用しているが、国の計画、法令等については原文のまま「生物多様性」を用いている。